

01 インパクトクリーナー プレミア

+IMPACT CLEANER

PREMIER

最高峰洗浄力

業務用

工業用

プレミア

01 インパクトクリーナー
IMPACT CLEANER PREMIER

安全データシート〈SDS〉兼 GHS分類シート

目次 / TABLE OF CONTENTS

① 化学品及び会社情報	⑦ 暴露防止及び保護処置	⑬ 廃棄上の注意
② 危険性・有害性の要約	⑧ 取扱い及び保管上の注意	⑭ 輸送上の注意
③ 組成・成分情報	⑨ 物理的及び化学的性質	⑮ 適用法令
④ 応急処置	⑩ 安定性及び反応性	⑯ その他の情報
⑤ 火災時の処理 応急処置	⑪ 有害性情報	
⑥ 漏出時の処置	⑫ 環境影響情報	

① 化学品及び会社情報

製品名	: インパクトクリーナー(プレミア) IMPACT CLEANER PREMIER
販売者	: PROUP株式会社
住所	: 新潟県新潟市中央区西大畑町617-2
電話番号	: 025-290-7704
FAX番号	: 025-290-7794
メールアドレス	: info@proup-impact.co.jp
緊急連絡先	: 025-290-7704
担当者	: 村田・森田

② 危険性・有害性の要約

化学品のGHS分類

● 健康有害性	急性毒性（経口）	区分4
	皮肉腐食性・刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷	区分1
	眼刺激性	
	特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	区分2
	特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）	区分2
● 環境有害性	水性環境有害性短期（急性）	区分3
	水性環境有害性長期（慢性）	区分外

GHSラベル要素 当製品は基本的に下記の各項目には該当しませんが、稀に有害な場合があります。※個人差あり

● 絵表示



● 注意喚起語 警告

特異性

通常の超強力アルカリ洗剤や劇物・毒物系の洗浄液に使われる「苛性ソーダ」を全く使用しておりません。そのため、皮膚に付着しても一般的なアルカリ性で見られる皮膚の組織を破壊する持続的な化学火傷を起こすリスクが極めて低いのが特徴となります。

「美肌の湯」をヒントにした独自の新発想成分により、人体に安全な温泉成分（アルカリ性）のメカニズムを濃縮・応用して作られています。肌の表面にある古い角質層を軽く剥がしやすくする（美肌の湯に入ったときにつるつるになる）ような肌に影響の少ない成分バランスで高アルカリを実現しています。

注意点

皮脂を奪うため長時間の作業や肌が弱い人は乾燥・肌荒れ・アカギレを起こすことがあります。
皮膚が弱い方などは、直接肌に長時間付かないよう手袋・防護服などを着用して作業することをお勧めいたします。

● 危険有害性情報 当製品は基本的に下記の各項目には該当しませんが、稀に有害な場合があります。※個人差あり

一般的なアルカリ性情報

H301 一飲み込むと有害な場合有り
H314+ H318 一重篤な皮同の葉傷及び目の損傷を負う可能性あり
H332+ H334 一吸入すると有害な場合有り、アレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ
H361 一生殖能力又は胎児への悪影響のおそれ
H371 一中枢神経、全身毒性の障害のおそれ
H373 一長期にわたる又は反復ばく露による血液系、呼吸器系の障害のおそれ
H402+ H412 一水生生物に有害

● 注意事項

安全対策	P260+ P261 一粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入をしないこと、避けること P264 一取扱後は手や接触箇所の皮向をよく洗うこと
応急措置	P301+ P330+ P331 一飲み込んだ場合は、口をすすぐこと、無理に吐かせないこと P303+ P361+ P353 一皮向や髪に付着した場合は、衣類や皮問を水又はシャワーで洗うこと P305+ P351+ P338 一眼に入った場合は水で数分間注意深く洗うこと コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること P310 一症状が酷い場合は、速やかに医師の手当てを受けさせる。本第4 項参照のこと
保管	P404+ P410 一容器容器に保管をし、日光から遮断すること
廃棄	P501 一内容物及び容器は承認をされた廃棄物処理場にて適切な廃棄を推奨する 排水処理基準を遵守して廃棄すること
使用上の注意	本安全データシート(SOS)を参照のこと

3 組成・成分情報

含有成分	CAS No.	含有率
水	7732-18-5	90%
非イオン界面活性剤	非公開	非公開
陰イオン界面活性剤	非公開	0.8%
メタ珪酸ソーダ	1344-09-8	非公開
イソプロピルアルコール	67-63-0	2.1%

4 応急処置

●当製品は基本的に下記の各項目には該当しませんが、稀に有害な場合があります。※個人差あり

- 吸入した場合 ————— 空気の新鮮な場所に移し、安静にさせ速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 ————— 流水/シャワーと石鹸でよく洗い、皮膚刺激が生じた場合は医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合 ————— 水で数分間洗い、コンタクトレンズを着用している場合は可能ならば外して洗浄をする。刺激が続く場合は医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 ————— 無理に吐かせずに口をすすがせ、直ちに医師の手当てを受けさせる。

5 火災時の処理

- 消火剤 ————— 霧状水、粉末、泡、炭酸ガス、乾燥砂、等適宜
- 消化方法 ————— 不燃性。周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。

6 漏出時の処置

●当製品は基本的に下記の各項目には該当しませんが、稀に有害な場合があります。※個人差あり

基本的には保護具不使用にて作業できますが、皮脂を奪うため長時間の作業や肌が弱い人は乾燥・肌荒れ・アカギレを起こすことがあります。
皮膚が弱い方などは、直接肌に長時間付かないよう手袋・防護服などを着用して作業することをお勧めいたします。

- 人体に対する注意事項 ————— 作業には必ず保護具を着用する。十分な換気若しくは通気性の良い所で作業する。
- 環境に対する注意事項 ————— 環境への放出を避ける。
- 除去方法 ————— 可能な限り、ウエス等で吸着させたりして回収する。
必要があれば希釈して回収し、大量の水で洗い流す。

7 暴露防止及び保護処置

基本的には保護具不使用にて作業できますが、皮脂を奪うため長時間の作業や肌が弱い人は乾燥・肌荒れ・アカギレを起こすことがあります。
皮膚が弱い方などは、直接肌に長時間付かないよう手袋・防護服などを着用して作業することをお勧めいたします。

●ばく露限界

化学名	CAS Number	日本産業衛生学会 許容濃度	米国産業衛生専門家会議 ACGIH
イソプロピルアルコール	67-63-0	400ppm	200ppm

- 設備対策 ————— 取扱い場所には、適切な換気装置を使用する。
近くに手洗い、洗眼等の設備を設ける。

●保護具

- 呼吸器の保護具 ————— 呼吸保護具
- 手の保護具 ————— 保護手袋
- 眼の保護具 ————— 保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具 ————— 保護服

- 衛生対策 ————— 取扱後は、付着品の一切をよく洗うこと
取扱中に飲食又は喫煙をしないこと
付着した衣類は脱ぎ、洗濯をしてから再使用すること

8 取扱い及び保管上の注意

- 当製品は基本的に下記「取扱い」の各項目には該当しませんが、稀に有害な場合があります。※個人差あり

注意点

皮脂を奪うため長時間の作業や肌が弱い人は乾燥・肌荒れ・アカギレを起こすことがあります。
皮膚が弱い方などは、直接肌に長時間付かないよう手袋・防護服などを着用して作業することをお勧めいたします。

● 取扱い

- 技術的対策** ————— 吸入、皮膚への接触を避け、眼に入らないように適切な保護具を着用する。
取扱いは、換気の良い場所で行う。取扱い場所の近くには、手洗い、洗眼等の設備を設ける。
- 注意事項** ————— 換気の良い場所で行う。皮膚及び眼への接触を避ける。
- 安全取扱注意事項** ————— 取扱い後は、よく手洗い等を行う。適切な保護具を着用する。

● 保管

- 適切な保管条件** ————— 容器を密閉して、換気の良い場所で保管する。
直射日光を避け、火気や熱源から遠ざけ、また凍結させない状態で保管する。(限度：3年)

9 物理的及び化学的性質

物理的性状
色
臭い
pH
沸点
引火点

液体
無色
刺激臭
pH 13.5 ± 0.5
100℃
なし

比重
蒸気圧
蒸気密度
蒸発率
水溶性

1.0
水と同じ
水と同じ
約1.0
完全水溶

10 安定性及び反応性

- 予期される通常の保管及び取扱いの条件において安定。酸性物質と激しく反応して発熱する。

11 有害性情報

- 当製品は基本的に下記の各項目には該当しませんが、稀に有害な場合があります。※個人差あり

急性毒性（経口）
皮膚腐食性・刺激性
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性
生殖毒性

区分4
区分1
区分1
区分2

特定標的臓器・全身毒性
（単回暴露）
特定標的臓器・全身毒性
（反復暴露）

区分2

区分2

12 環境影響情報

- 水生環境慢性有害性 ————— 分類できない

毒性試験・生分解生試験結果

試験項目	使用量	試験期間	結 果
急性経口毒性試験 マウスによる摂取	2000mg/L	14日間	異常なし
魚類急性毒性試験 ヒメダカによる摂取	10000mg/L	96時間 (暴露方式)	異常行動・異常外観なし
生分解度試験 微生物源とする土・水 など	2000mg/L	14日間 (DOC法)	高分解性 平均84%以上

有害物質分析結果

試験項目	結 果	
水酸化カリウム又は水酸化ナトリウム	適	0.5ml以下
テトラクロロエチレン	適	検出せず
トリクロロエチレン	適	検出せず
ヒ素	適	
重金属	適	
メタノール	適	
着色料	適	検出せず
カドニウム	適	検出せず
総クロム	適	検出せず
シアン	適	検出せず
PCB	適	検出せず

13 廃棄上の注意

- 地域、国、現地の法律及び規則に従って適切に廃棄をすること

14 輸送上の注意

- 国際規制 ————— 該当しない
- 注意事項 ————— 容器漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷の無いよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

15 適用法令

- 化管法 ————— 指定化学物質：直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩
- 労働安全衛生法 ————— 第57条の2通知対象物：イソプロピルアルコール
- 竈物及び劇物取締法 ————— 該当しない
- 消防法 ————— 該当しない
- PRTR法 ————— 該当しない

16 その他の情報

- 参考文献：NIT E 独立行政法人製品評価技術基盤機構
- 備考：〔免責〕このSDS はJ ISZ7253:2019 に準拠をして作成をしております。
- 本記載内容は、通常の取扱いを対象としており。他の物質と組み合わせたり混合をする場合は、安全対策を講じた上でご使用ください。
- 改訂日における最新の情報に基づき作成しておりますが法令の改正及び新しい知見に基づいて危険有害性を有する可能性があります。御使用の際は可能な限り安全確保に努め、ばく露を避けるように充分ご注意ください。